

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

自分しか知らないことを人に説明するのは、意外にむずかしいものです。たとえば、はじめて食べた果物の味を友だちに伝えたいとき、「あまくて、少しすっぱい」と言っても、相手はなかなか思いうかべられません。そんなときに役立つのが、たとえば。

「みかんよりもあまくて、りんごのようにしゃりしゃりしている。」と言われたら、どうでしょう。聞いた人は、自分が知っている味や歯ごたえを思い出しながら、その果物を想像することができます。

たとえばよく伝わるのは、相手がすでに知っているものと、新しいものとを結びつけるからです。人は、まったく知らないことを、何もなしところから思いうかべることはできません。しかし、知っているものを手がかりにすれば、そこから少しずつ形を作っていくのです。

ただし、たとえを使うときには、気をつける必要があります。それは、相手が知っているものを選ぶことです。小さな子に、その子が見たこともない物でたとえても、手がかりにならず、かえって分かりにくくなってしまいます。

説明がうまい人は、ただ言葉をたくさん知っているだけではありません。聞く人が何を知っているのかを考えて、その人にとどく橋をかけているのです。

(この問題のための書き下ろし)

問一 たとえがよく伝わるのはなぜですか。「くからです」につづくように、本文から三十字までで書きぬきましょう。

と	る	相
を	も	手
結	の	が
び	と	す
つ	、	で
け	新	に
る	し	知
	い	っ
	も	て
	の	い

問二 「かえって分かりにくくなってしまいました」とありますが、それはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア たとえの言葉が、長すぎるから。

イ 相手の知らない物でたとえても、手がかりにならないから。

ウ 小さな子には、果物の味が分からないから。

イ

問三 「その人にとどく橋をかけている」とありますが、これはどういうことですか。四十字までで書きましょう。

説	し	と	聞
明	い	を	く
す	こ	考	人
る	と	え	が
こ	を	て	知
と	結	、	っ
。	び	そ	て
	つ	れ	い
	け	と	る
	て	新	こ

問四 この文章の書き方として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア たとえを使わないほうがよいわけを、三つならべている。

イ 果物の育て方を、順番に説明している。

ウ 身近な例から入り、たとえば伝わるわけと気をつけることを説明して、最後にまとめている。

ウ

【小5】国語 文章問題 説明文 2 答えと解説

問一（二十五点） 答え：相手がすでに知っているものと、新しいものとを結びつける

解説：三つ目のまとまりの最初の文から。

問二（二十五点） 答え：イ

解説：すぐ前の「見たこともない物でたとえても、手がかりにならず」から。ア・ウは本文に書いていない。

問三（二十五点） 答えの例：聞く人が知っていることを考えて、それと新しいことを結びつけて説明すること。

解説：最後のまとまりと、三つ目のまとまりから。「橋」は、相手の知っていることと新しいことをつなぐものをたとえている。二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①聞く人が何を知っているのかを考える

②相手の知っているものと、新しいことを結びつけて説明する

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：果物の味の例から入り、三つ目でわけ、四つ目で気をつけること、最後にまとめを書いている。アは本文と反対。イの育て方は出てこない。